

子ども・若者総合計画(第3期)における若者施策の方向性について(たたき台)

資料4-2

主に青年期等の若者を対象として、地域に若者の多様なニーズや特性に応じた居場所や活動の機会を充実させることで、安心できる場、信頼できる人との出会い、多様な経験等を通して、「若者が自分らしくチャレンジでき、主体的・継続的に活躍できる」環境づくりを推進する。

高校生世代～青年期の若者

<背景>

- ・子ども期から続く課題と、自立を見据えた若者期特有の課題を併せ持つ
- ・学齢期を終え、環境が変化し社会とのつながりが希薄になる
- ・若者の自立は家庭や一個人の問題として捉えられている

<若者の思い・ニーズ>

孤独だ

頼れる人がいない

安心できる居場所がほしい

働きたい、仕事に不安だ

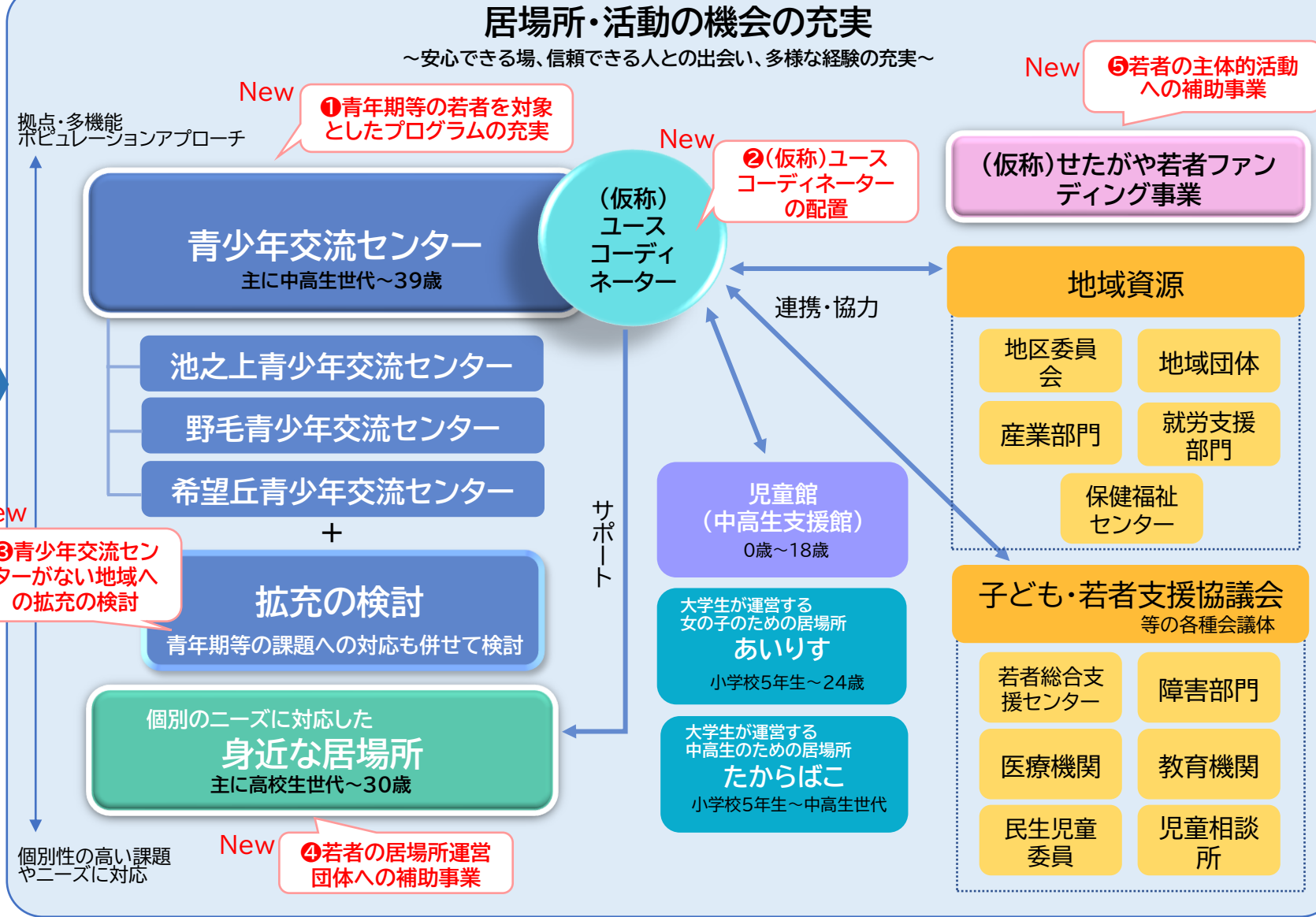
交流・活動したい

R5若者調査(対象:15～29歳)

- ・孤独だと感じる 21.6%
- ・自分の精神状態は健康ではないと思う 25.9%

孤立による課題の深刻化

- ・ひきこもり ・不登校 ・自殺 ・非行
- ・ヤングケアラー ・就労定着不安 ・貧困
- ・困難を抱えた若年女性 ・闇バイト など



若者が自分らしくチャレンジでき、主体的・継続的に活躍できる